



## 株式会社 ニチダイ

NICHIDAI CORPORATION

本 社 TEL.(0774)62-3481(代)

URL <http://www.nichidai.jp/>

ニチダイへの理解を深めていただくために、  
ホームページをご活用ください。

### 硬式野球部が都市対抗野球大会に初出場

ニチダイ硬式野球部が、京都・滋賀・奈良地区の代表として、都市対抗野球本大会に初出場を果たしました。硬式野球部の創部は1997年であり、創部10年目にして悲願を達成しました。選手たちは午前6時半から宇治田原工場でフルタイム勤務した後で練習に励んでおり、このことが、マスコミでも大きく取り上げられました。



## ニチダイ 株主通信 Vol.10 November 2006



# Insight and Information

### 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

基準日 期末 3月31日

中間 9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

(お問い合わせ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

電話0120-094-777(フリーダイヤル)

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

公告方法 電子公告

当社ホームページ(<http://www.nichidai.jp>)

にて掲載

単 元 株 式 数 100株

### 見通しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実ではないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。

これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。

○なお、株式関係のお手続き用紙のご請求は、以下の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(フリーダイヤル) 0120-244-479(本店証券代行部)

0120-684-479(大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

### Contents

ニチダイグループは「他社の追随を許さない高い技術力」をコアに、3つの事業を展開しています	2
株主の皆さまへ	4
特集：当中間期の成長の牽引役となったVGターボチャージャー部品について担当役員が語る	7
決算ハイライト	8
各事業の実績(2007年3月期中間)	9
主要中間連結財務諸表	10
TOPICS	12
会社概要/株主情報	14

### ラッピング工程

金型に最終的な磨きを入れて完成させる「ラッピング」。ミクロンの精度が求められる工程ですが、製品が多種多様なため機械化することが難しく、作業者の高度なスキルが頼りとなります。各企業とも団塊世代の定年で技術継承が課題となる中、当社は若手技術者が主体であり、技能伝承チームを編成してスキル向上に取り組んでいます。

証券コード6467

株式会社 ニチダイ  
NICHIDAI CORPORATION

# ニチダイグループは「他社の追随を許さない高い技術力」をコアに、3つの事業を展開しています。

## 金型事業 Forging Die Business

精密鍛造金型の開発・生産・販売。

### 自動車部品成形用の精密鍛造金型のトップメーカー。

「精密鍛造」とは、熱を加えることなく、金属素材をプレス機などで圧力を加え、複雑な形状の部品を成形する加工法\*です。生産のスピードアップが図れるため、高精度・高強度が要求される大量生産部品の加工に適し、主にエンジン、トランスミッション、駆動系などの自動車部品成形に使用されています。

ニチダイの生産する精密鍛造金型は、国内外の多くの自動車部品メーカーで用いられています。

### 理想の加工技術「ネットシェイプ」を追求。

ニチダイは、削ることなく、熱を加えずに、複雑な形状の部品を一発で成形する理想の加工法「ネットシェイプ」を追求しています。「ネットシェイプ」は、切削加工や熱間鍛造(熱を加えて加工を行う鍛造)と比較して、①削らないため材料ロスが少ない ②高精度の部品成形が可能 ③生産のスピードアップが図れる ④高強度の部品成形が可能——などの優位性があり、省資源・省エネルギーに貢献します。

### 「精密鍛造技術」のトータルエンジニアリングサービスを提供。

ニチダイは、金型の製造・販売にとどまらず、研究開発や金型設計段階から部品量産までトータルエンジニアリングサービスを提案・提供し、あらゆるニーズに対応することが可能です。また受託開発や共同開発にも積極的に取り組んでいます。ニチダイは精密鍛造技術開発力と金型技術総合力をコアに、トータルエンジニアリング力による「ネットシェイプの総合製造サービス業」を目指しています。

\* 加工プロセスについては当社ホームページ (<http://www.nichidai.jp/>)の動画をご参照ください。

### フィルタ事業

467百万円  
8%

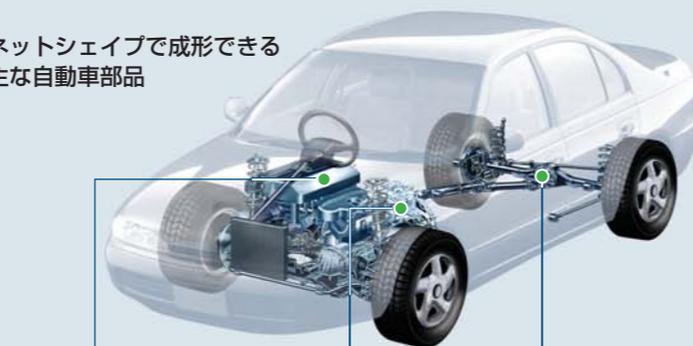
部品事業  
2,524百万円  
42%

### 金型事業

3,014百万円  
50%

2007年  
3月期  
中間連結売上高  
6,006  
百万円

ネットシェイプで成形できる  
主な自動車部品



エンジン関連部品



トランスミッション関連部品



駆動関連部品



精密鍛造金型

## 部品事業 Components Business

独自生産技術によるアッセンブリと精密鍛造品の生産。

### ディーゼルエンジン用VGターボチャージャー部品のアッセンブリ——ディーゼル車の環境規制強化が背景。

ニチダイは、ディーゼルエンジン用VGターボチャージャーに搭載される部品のアッセンブリを2004年9月より開始しました。

VGターボチャージャーは、ディーゼル車のPM・NOxの排出量を抑制するとともに、低トルク時におけるスムーズな走行を可能にします。環境規制が高まるなか、欧州における乗用車のディーゼル化率が50%近くまで高まっていることから、今後の成長が期待されています。



VGターボチャージャー部品

### 精密鍛造部品の生産——金型事業とのシナジーも推進。

部品事業では、精密鍛造部品の生産も手がけています。カーエアコンのコンプレッサーに使用されるアルミ合金製のスクロール鍛造品を中心に、お客様からの要請により、自動車部品などの精密鍛造品の受託生産も行っております。

また、部品事業で保有する鍛造の生産設備、蓄積された生産ノウハウは、金型事業における製品開発に活用され、シナジー効果を目指した事業展開を推進しています。



スクロール鍛造品



精密鍛造品



\* 部品事業の詳細につきましては本誌P7をご覧ください。

## フィルタ事業 Filter Business

積層焼結技術によりフィルタ構造の一体化を実現。

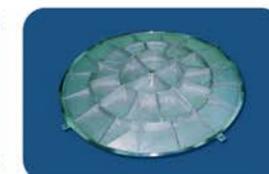
### 石油化学、医薬品、食品業界など多様な産業分野に使用される高機能フィルタ。

ニチダイフィルタでは、独自に開発した積層焼結技術によって、何枚ものステンレス金網を各種各様に重ねて一体構造化した高機能フィルタを提供しています。石油化学、ガス、原子力などのエネルギー分野、繊維や液晶テレビ等のフィルム、プラスチックなどの化学分野、医薬品・食品分野のほか、H2Aロケットにも使用されるなど幅広く活用されています。

ニチダイフィルタが提供する高機能フィルタは、ろ過精度、機械的強度、耐食性、耐熱性に優れているほか、洗浄により再利用を可能にする特長をもっています。



各種液体ろ過用フィルタ



医薬品ろ過用フィルタ



© JAXA



ポリマーろ過用フィルタ

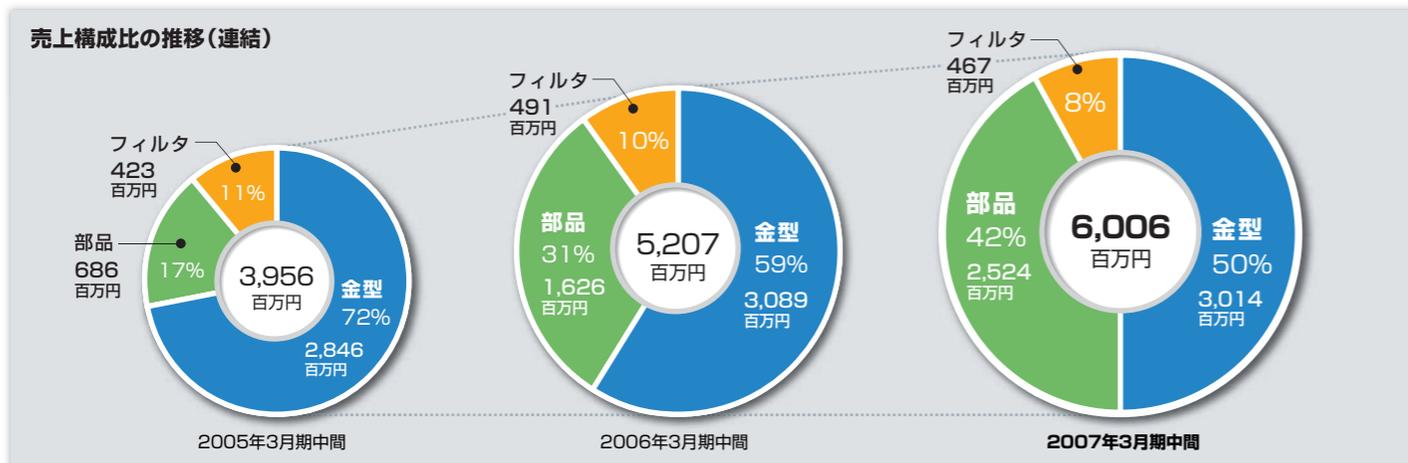
5層構造のポアメット  
0.3~200ミクロンという幅広い過精度に対応。  
機械的強度、耐食性、耐熱性に優れる。

## 部品事業が引き続き伸張し、増収・増益を記録。利益還元のため 中間配当を実施しました。今後のさらなる事業成長にご期待ください。



代表取締役社長 **古屋 元伸**  
(ふるや もとのぶ)

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。当中間期における当社の連結業績につきまして、ご質問にお答えする形で概要を説明させていただきます。



▶ 株主の皆さまからのご質問にお答えします

**Q** 当中間期の業績とその要因を教えてください。

**A** 当中間期における連結売上高は60億6百万円(前年同期比15.3%増)、連結経常利益4億6千1百万円(前年同期比9.6%増)となり増収・増益を記録することができました。

この一番の要因としては、部品事業の売上高の成長があげられます。部品事業では、ディーゼルエンジン用VG(可変容量型)ターボチャージャーに搭載される部品のアッセンブリを行っています。VGターボチャージャーは、大幅な技術革新を遂げたディーゼルエンジンのコア部分を形成する機構で、需要が大きく拡大しています。当社においては、手がける部品の生産機種が多様化したことに加え、当中間期では昨年、規格見直しなどが生じた生産品の納期対応のため追加生産もあり、売上高が25億2千4百万円(前年同期比55.2%増)と大きく伸張しました。また、組立ラインが安定してきたことから、利益面でも大きく貢献しています。

**Q** 各事業の状況を教えてください。

**A** まず主力の金型事業ですが、国内向けの売上高が減少したため、減収・減益となりました。これは、中部地区における売上高が減少したことに起因しています。中部地区においては、在庫調整を行ったユーザーがあったことや、部品開発の新規案件が減少したことに加えて、一部メーカーでの生産減の影響があったことが売上高減少の要因です。国内のその他の地域では、ほぼ計画を達成しました。

一方、海外売上高は、中国・韓国で現地ユーザー向けの販売が好調だったことと、営業拠点を移したニチダイアメリカによる日系メーカー向けの売上が拡大したことから増加しました。

部品事業では、先ほどお話ししたように売上高、利益とも大きく成長しました。その背景には、ターボチャージャーメーカーが

欧州向けの展開を積極的に推し進めていることがあります。燃費の良さに加え環境性能を高めてきたディーゼルエンジン車は、欧州市場で強く支持されていますが、欧州では新たな環境基準が設けられることになっており、その基準をクリアするためにはVGターボチャージャーが必要なことから、生産量が大きく伸張している次第です。(部品事業については、7ページで詳細に説明しています)

また、フィルタ事業では、計画していた石油掘削用のフィルタの受注が当中間期からずれ込みましたが、デジタル家電などに使用される高機能フィルム生産設備向けのものやアジア向け輸出が大きく伸びました。昨年の売上高には大口のスポット案件が含まれているため、前年同期と比較すると減少していますが、ほぼ計画どおりの売上高を達成することができました。

中間実績および期末業績予想 (単位:百万円)

	2006年3月期中間		2007年3月期中間		2006年3月期		2007年3月期	
	実績	実績	実績	伸び率	実績	業績予想	実績	業績予想
<b>単独</b>								
ニチダイ								
売上高	4,604	5,361	16.4%		9,758	10,640		
経常利益	458	395	△13.7%		803	940		
<b>連結子会社</b>								
ニチダイフィルタ								
売上高	491	467	△4.9%		914	1,050		
経常利益	58	58	0.7%		119	131		
ニチダイアメリカ								
売上高	189	337	78.3%		498	618		
経常利益	△97	3	-		△92	3		
<b>連結</b>								
売上高	5,207	6,006	15.3%		10,795	12,000		
売上総利益	1,282	1,336	4.2%		2,498	2,852		
販売管理費	823	834	1.3%		1,612	1,707		
営業利益	458	502	9.5%		885	1,145		
営業外損益	△37	△40	-		△82	△95		
経常利益	421	461	9.6%		802	1,050		
当期純利益	156	266	69.8%		369	610		

\* 百万円未満は切り捨て。

部門別売上高の状況 (単位:百万円)

	2006年3月期中間		2007年3月期中間		2006年3月期		2007年3月期	
	実績	実績	実績	伸び率	実績	業績予想	実績	業績予想
<b>金型</b>								
国内	2,658	2,428	△8.7%		5,353	5,150		
海外	319	408	27.9%		759	890		
ニチダイアメリカ	189	337	78.3%		498	618		
(連結消去)	(77)	(159)	(105.4%)		(375)	(308)		
合計	3,089	3,014	△2.4%		6,235	6,350		
(うち商品)	(64)	(84)	(30.8%)		(190)	(102)		
<b>部品</b>	1,626	2,524	55.2%		3,645	4,600		
<b>フィルタ</b>	491	467	△4.9%		914	1,050		
<b>連結</b>	5,207	6,006	15.3%		10,795	12,000		

\* 百万円未満は切り捨て。

## Q 通期の見通しについて教えてください。

**A** まず、国内金型売上が減少した金型事業ですが、落ち込みの原因となった中部地区においても、部品開発案件が生じてきています。これを確実に受注することにより、上半期以上の売上を達成できる見込みです。

また、海外においては、経済発展が進むインド市場に関する営業を強化していく方策をとっていきます。さらに、ニチダイアメリカ

力では、引き続き日系メーカーへのアプローチを強め、通期での黒字化を目指します。

次に部品事業ですが、上半期は納期対応による追加生産分があり売上が伸びましたが、下半期は通常の受注・生産量に戻るため、売上高は上半期に比べ減

少する見込みです。しかし通期では、売上・利益とも前期を大きく上回る見込みです。

フィルタ事業に関しては、下半期には上半期からずれ込んだ石油掘削用のフィルタに加えて、アジア市場向けの輸出や高機能フィルム生産設備用のフィルタが大きく伸びる見込みで、大幅な増収が期待できます。

このようなことから通期連結業績は、売上高120億円、経常利益10億5千万円、当期純利益6億1千万円となる見通しです。

## Q この中間期における、その他のトピックスを教えてください。

**A** 一つは中間配当の実施です。今期は、40周年記念配当5円を含む20円の配当になることは、前期末の決算発表時にすでにお知らせしていますが、タイムリーな利益還元を行うことを目的に、中間時に10円の配当を実施することとしました。

当社は株主の皆様への利益還元を経営の重要政策として位置づけ、安定した配当政策を継続していくことを基本方針としています。今後も見込みどおりの業績を達成し、安定配当を実現すべく努力していきます。

また、7月に100万株の公募増資を行いました。この資金調達により、3事業それぞれに設備投資を行い、生産能力増強などを行いました。

当社の事業は、3事業ともまだ成長途上の段階です。そのため、「顧客満足度、株主満足度、社員満足度を高い次元で満たし、企業価値の最大化を図る」という経営の基本方針に則り、今後、技術開発の強化、グローバル化の展開を積極的に推進していきたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、これまで以上に当社グループにご指導ご鞭撻を賜り、さらなる成長にご期待いただけることを心より願っております。

2006年11月  
代表取締役社長 古屋 元伸

## 特集 当中間期の成長の牽引役となったVGターボチャージャー部品について担当役員が語る

# 大幅な技術革新を遂げたディーゼルエンジン車用の部品。欧州向けが大きく伸張しています。



取締役  
部品事業統括  
**島崎 定**  
(しまさき さだむ)

## 欧州では、新車の半数がディーゼルエンジン自動車

VGターボチャージャーは、主にディーゼルエンジン乗用車のエンジンに搭載されるものです。欧州では、新車として販売される乗用車の約半数がディーゼルエンジン車です。日本では大気汚染等の問題からマイナスイメージが定着してしまったディーゼルエンジンですが、欧州で普及しているのは、大幅な技術革新によって、排ガスなどの環境問題が改善されたからです。

VGターボチャージャーは、精密に燃料噴射を制御する装置(コモンレール)などとともに、ディーゼルエンジン関連の技術革新のコアとなっています。ニチダイでアッセンブリを行っている部品は、国内のメーカーで生産されるVGターボチャージャーに搭載され、欧州の乗用車に納められています。

## 他事業との相乗効果も期待されるアッセンブリ事業

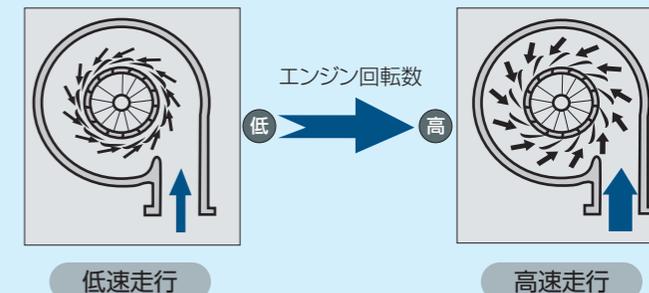
欧州では、2008年頃に新たな排ガス規制「Euro5」が施行されます。この規制に対応できるVGターボチャージャーは、原油高の影響で燃費が良いディーゼルエンジン乗用車が見直される中で、ますます需要拡大が予想されます。

ニチダイの部品事業は、精密鍛造金型を使った部品生産から始まり、VGターボチャージャー部品のアッセンブリ事業へと脈々と受け継がれてきました。このプロセスの中で、金型事業とは異なる大量生産の技術ノウハウが蓄積され、今後の事業展開の選択肢が広がると考えています。またVGターボチャージャー部品に使用される構成部品は、金型事業で培った塑性加工技術と結びつき、将来的に他事業との相乗効果も期待できます。

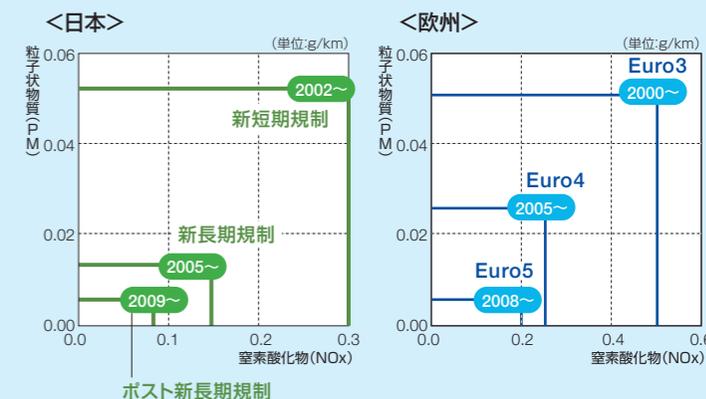
## VGターボチャージャーの構造・特徴



VGターボチャージャーの特徴は、エンジンの回転数に合わせて羽の開閉度を調節できること。この特長を生かすことで、粒子状物質(PM)や窒素酸化物(NOx)といった環境負荷物質の排出を抑えることができます。

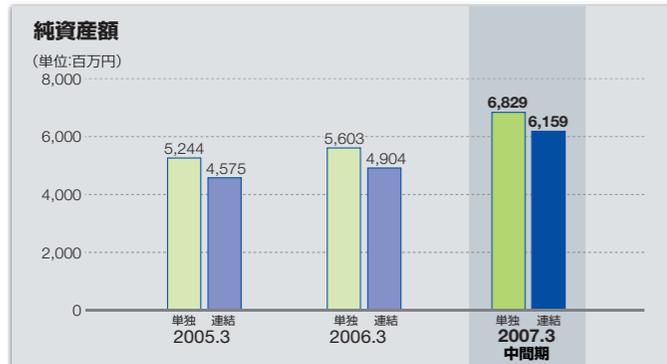
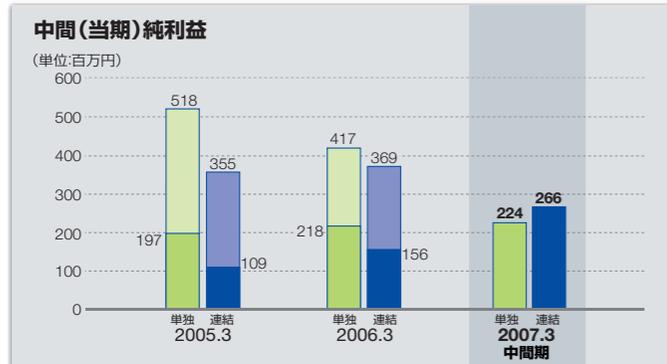
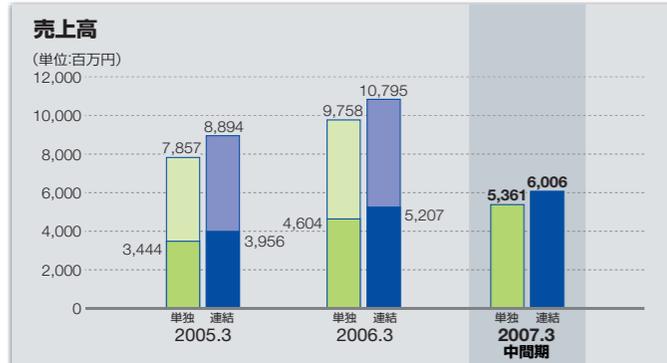


## 日欧のディーゼルエンジン排ガス規制

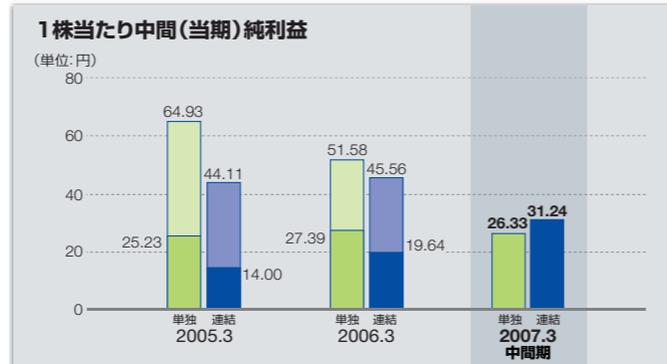
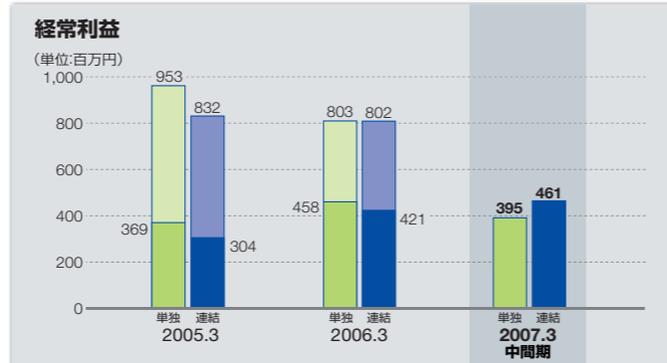


# 決算ハイライト

■ 通期(単体) ■ 通期(連結)  
■ 中間期(単体) ■ 中間期(連結)



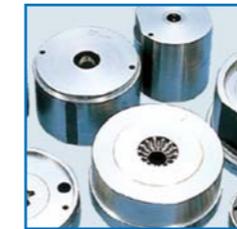
\* 当中間連結会計期間より、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。



\* 中間期末配当金は、普通配当金7円50銭、記念配当金2円50銭を加えた合計10円です。期末配当金は、普通配当金7円50銭、記念配当金2円50銭を加えた合計10円を予定しています。

# 各事業の実績(2007年3月期中間)

## 金型事業



国内向けでは、中部地区での受注が減少したことから前年同期を下回りました。一方、海外向けは中国・韓国向けが好調で、北米でも増加しました。

この結果、金型事業の連結売上高は、30億1千4百万円(前年同期比2.4%減)となりました。



## 部品事業

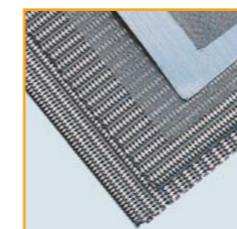


アッセンブリ分野で、VGターボチャージャー部品の生産機種の増加に加え、前期に部品の設計変更や規格見直しが生じた機種種の納期対応としての追加生産があったことから、生産高が大幅に伸張しました。

この結果、部品事業の連結売上高は25億2千4百万円(前年同期比5.2%増)となり、利益拡大にも大きく貢献しました。

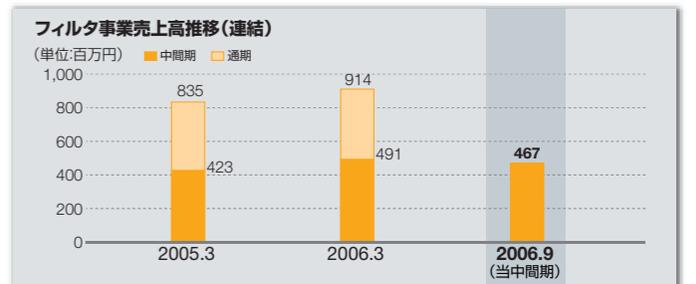


## フィルタ事業



高性能フィルム生産設備向けおよびアジア向けの輸出が伸張した一方で、石油掘削用フィルタの受注確定時期が計画よりずれ込みました。

この結果、フィルタ事業の連結売上高は、4億6千7百万円(前年同期比4.9%減)となりました。



# 主要中間連結財務諸表

## 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部 科目	前中間期	当中間期	前期
	2005年 9月30日現在	2006年 9月30日現在	2006年 3月31日現在
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>			
1 現金及び預金	728	1,274	835
受取手形及び売掛金	2,820	2,833	2,989
たな卸資産	1,338	1,313	1,218
その他	179	149	98
貸倒引当金	△36	△25	△39
<b>流動資産計</b>	<b>5,028</b>	<b>5,545</b>	<b>5,103</b>
<b>固定資産</b>			
2 有形固定資産	5,758	5,834	5,745
無形固定資産	57	54	57
投資その他の資産	365	366	371
<b>固定資産計</b>	<b>6,181</b>	<b>6,255</b>	<b>6,174</b>
<b>繰延資産計</b>	<b>—</b>	<b>10</b>	<b>—</b>
<b>資産合計</b>	<b>11,209</b>	<b>11,811</b>	<b>11,277</b>

\*百万円未満は切り捨て。

## Check Point

### 1 現金及び預金の増加

売上高の増加と公募増資による増加。

### 2 有形固定資産の増加

前中間期以降、約7億円の投資

(単位:百万円)

負債および純資産の部 科目	前中間期	当中間期	前期
	2005年 9月30日現在	2006年 9月30日現在	2006年 3月31日現在
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>			
3 買掛金	623	791	654
短期借入金	1,024	659	1,180
一年以内に返済予定の長期借入金	897	862	944
一年以内に償還予定の社債	20	20	20
未払法人税等	282	233	166
賞与引当金	242	204	116
その他	457	375	370
<b>流動負債計</b>	<b>3,547</b>	<b>3,146</b>	<b>3,452</b>
<b>固定負債</b>			
4 社債	2,060	2,040	2,050
長期借入金	874	429	820
退職給付引当金	59	35	49
<b>固定負債計</b>	<b>2,994</b>	<b>2,505</b>	<b>2,920</b>
<b>負債合計</b>	<b>6,541</b>	<b>5,652</b>	<b>6,372</b>
<b>(純資産の部)</b>			
5 資本金	860	1,426	860
資本剰余金	624	1,189	624
利益剰余金	3,217	3,571	3,429
為替換算調整勘定	△50	△44	△31
その他	16	16	22
<b>純資産合計</b>	<b>4,668</b>	<b>6,159</b>	<b>4,904</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>11,209</b>	<b>11,811</b>	<b>11,277</b>

\*百万円未満は切り捨て。純資産の部は、前年資本の部と比較

\*当中間連結会計期間より、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号平成17年12月9日)を適用しております。

3 短期借入金の減少  
増資による。

4 長期借入金の減少  
約定返済による減少。新規借入れがなかったことによる。

5 資本金・資本剰余金の増加  
7月に100万株の公募増資。

## 中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前中間期	当中間期	前期
	2005年4月1日から 2005年9月30日まで	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2005年4月1日から 2006年3月31日まで
6 売上高	5,207	6,006	10,795
売上原価	3,925	4,670	8,297
売上総利益	1,282	1,336	2,498
販売費及び一般管理費	823	834	1,612
営業利益	458	502	885
営業外収益	20	15	29
営業外費用	57	56	112
経常利益	421	461	802
特別利益	3	5	16
特別損失	82	8	82
税金等調整前中間(当期)純利益	342	458	737
法人税、住民税及び事業税	273	224	384
法人税等調整額	△87	△31	△15
中間(当期)純利益	<b>156</b>	<b>266</b>	<b>369</b>

\*百万円未満は切り捨て。

## 中間連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
平成18年3月31日残高	860	624	3,429	△0	4,913	23	△31	△8	4,904
中間連結会計期間中の変動額									
新株の発行	566	565	—	—	1,132	—	—	—	1,132
剰余金の配当	—	—	△119	—	△119	—	—	—	△119
役員賞与の支給	—	—	△5	—	△5	—	—	—	△5
中間純利益	—	—	266	—	266	—	—	—	266
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△5	△12	△18	△18
中間連結会計期間中の変動額合計	566	565	141	—	1,273	△5	△12	△18	1,254
平成18年9月30日残高	1,426	1,189	3,571	△0	6,186	17	△44	△27	6,159

\*百万円未満は切り捨て。

## Check Point

### 6 売上原価の増加

材料費・外注加工費:VGターボチャージャー部品の売上高増加によるもの。金型材料価格は落ち着いた状況。

減価償却費:設備投資増加による。

## 7 中間連結キャッシュ・フロー計算書

- 営業活動によるキャッシュ・フロー: 営業活動の結果得られた資金は8億5千5百万円(前年同期比7億9千2百万円増)となりました。主に税金調整前中間純利益4億5千8百万円、減価償却費2億9千8百万円を計上したものである。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー: 投資活動の結果使用した資金は3億1千3百万円(前年同期比1億5千5百万円減)となりました。これは、主に生産設備の増強など有形固定資産の取得によるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー: 財務活動の結果使用した資金は2百万円(前年同期は2億9千1百万円の獲得)となりました。これは、主に株式の発行による収入11億2千万円および借入金の返済9億9千2百万円によるものです。

## ジャスダック証券取引所から「IR優良会社」に表彰されました

当社は、ジャスダック証券取引所が選定する2006年度IR優良会社に表彰されました。この制度は、ジャスダック上場企業の中でIR活動が優良と認められる企業を表彰するもので、今年で2年目となります。

今回の受賞理由は、WebサイトとIR資料の両方での情報が充実していること、特にWebサイトではグローバルな投資家への配慮や、FQA(よくいただく質問と回答)の項目を多数設けていることなどが、評価されたことによるものです。

詳細は、ジャスダックホームページ(<http://www.jasdaq.co.jp/>)でも紹介されています。



2006年9月の表彰式

## 「元気なモノ作り中小企業300社」に選定されました

2006年4月に経済産業省中小企業庁が発表した「元気なモノ作り中小企業300社」の1社に、当社が選ばれました。

日本の国際競争力は、高度なモノ作り技術によって支えられています。世界市場や国内市場で高いシェアを有する企業や、他社に真似のできない独創的な技術を有する企業を紹介するとともに、さらなる奮起と躍進を期待するとの趣旨のもと、今回、初めて選定が行われたものです。

当社については、複雑な形状の部品を一発成形し、切削加工が不要なネットシェイプ成形技術を保有していること、また金型設計から部品製造までトータルエンジニアリングサービスを提供していることが紹介されています。

詳細は中小企業庁のホームページ(<http://www.chusho.meti.go.jp/>)をご覧ください。



感謝状・記念メダル



## 株主の皆様の役に立つIRサイトを目指しています <http://www.nichidai.jp/ir/>

これからも、IRサイトのさらなる情報の充実に努めるほか、さまざまなメディアを通じて株主・投資家の皆様のお役に立つ情報を発信していきます。この「株主通信」にはアンケートはがきを添付していますので、ご質問、ご意見、ご感想などをぜひお寄せ下さい。

### ■株主・投資家の皆様へ

業績など最新情報の迅速なプレスリリースを通じて投資家の皆様へ充実したIR情報をお届けしていきます。



IRサイトトップページ

主なコンテンツ  
中期経営計画/IRニュース/IRライブラリー  
IRカレンダー/FAQ etc...

### ■What's NICHIDAI

当社の事業内容を、動画などでわかりやすく解説しています。



トップページ

What's NICHIDAI

ムービーでわかる「ネットシェイプ」

## 田中前社長が型技術協会から「功労者賞」を受賞しました

当社前社長田中善昭が、型技術協会の創立20周年にあたって「功労者賞」を受賞しました。

型技術協会は、工業製品を支える要となる技術の一つである型技術とその関連分野に関する技術の進歩を図ることを目的に、1986年に設立された組織であり、企業や研究者などから構成されています。

同協会が2006年に創立20周年を迎えたことから、型技術の振興および協会の発展に寄与した方々を顕彰する功労者賞が設けられ、田中前社長は、長年にわたる鍛造金型技術の開発と発展に貢献したとして表彰されました。



2006年6月の表彰式  
(田中前社長は前列左から2番目)

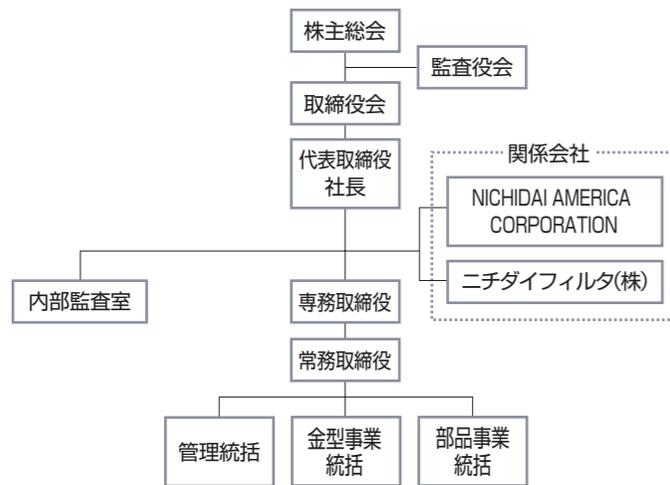


# 会社概要

## ▶ 会社概要 (2006年9月30日現在)

社名 株式会社ニチダイ  
 (英文表記) NICHIDAI CORPORATION  
 証券コード 6467  
 本社所在地 京都府京田辺市新北町田13  
 創業年月日 1959年5月5日  
 設立年月日 1967年5月1日  
 資本金 14億2,669万円  
 事業内容 精密金型の開発・製造・販売  
 精密鍛造品およびその関連する成形品の開発・製造・販売  
 各種ろ過装置および金属ろ過材料の開発・製造・販売  
 各種焼結金属の開発・製造・販売  
 精密部品の組立および開発・製造・販売  
 従業員数 361名(連結)、303名(単独)

## ▶ 組織図 (2006年9月30日現在)



## ▶ 事業所 (2006年9月30日現在)

本社 京都府京田辺市新北町田13  
 宇治田原工場 京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14  
 熊谷営業所 埼玉県熊谷市桜木町2丁目88番  
 浜松営業所 静岡県浜松市高丘西1-10-20  
 名古屋営業所 名古屋市千種区桜が丘295 第8オオタビル  
 京都営業所 京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14  
 富山出張所 富山県富山市本郷町234-3 椎ノ木台 I 104号室  
 岡山営業所 岡山県岡山市辰巳22-103 TCKビル  
 熊本出張所 熊本県熊本市長嶺南1丁目1番7号  
 上海事務所 中国上海市婁山関路55号新虹橋大廈604室

## ▶ 役員 (2006年9月30日現在)

代表取締役社長 古屋元伸  
 専務取締役 西村 讓 (NICHIDAI AMERICA CORPORATION 社長)  
 常務取締役 藤本光洋  
 取締役 瀬川 秀実 (管理統括)  
 取締役 島崎 定 (部品事業統括)  
 取締役 畑中 恵二 (金型事業統括)  
 取締役 平岩 益夫 (ニチダイフィルタ社長)  
 監査役(常勤) 萩野 雅章  
 監査役 小原 正敏  
 監査役 堤 昌彦

## ▶ 関連会社 (2006年9月30日現在)

ニチダイフィルタ株式会社  
 京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14  
 NICHIDAI AMERICA CORPORATION  
 (Kentucky) 1030 Fortune Drive Richmond, KY 40475, USA  
 (Ohio) 15630 E State Route 12 Unit 4, Findlay, OH, 45840-9743, USA

# 株式情報

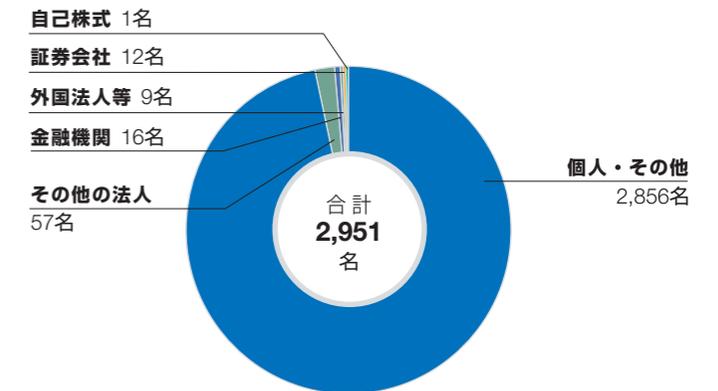
## ▶ 株式の状況 (2006年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	15,500,000株
発行済株式の総数	9,042,800株
1単元の株式数	100株
株主数	2,951名

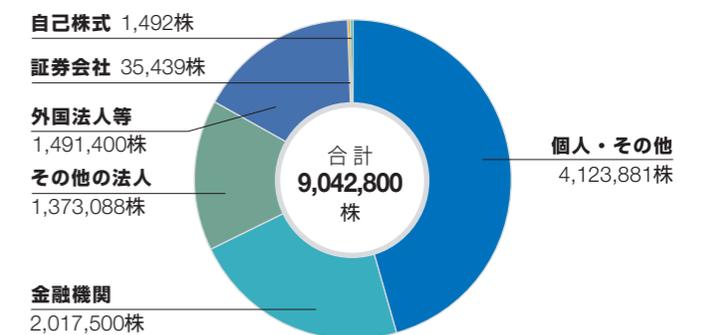
## ▶ 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
有限会社ジャスト	885,600	9.79%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	795,800	8.80%
田中善昭	572,092	6.32%
クレディエットバンクエスエイルクセンブルジョワーズ シリウスファンドジャパンオパチュニティサブファンド	500,000	5.52%
エイチエスピーシーバンクピーエルシーアカウント アトランティスジャパングロスファンド	475,000	5.25%
田中克尚	307,036	3.39%
ニチダイ従業員持株会	299,844	3.31%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	226,400	2.50%
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	221,000	2.44%
株式会社三菱東京UFJ銀行	217,600	2.40%

## ▶ 所有者別分布



## ▶ 所有者別株式数分布



### アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまのご満足を追求し、今後も業績情報の開示の充実に努めてまいります。  
 この株主通信に対するご感想、ご意見をお寄せください。  
 つきましては同封のアンケートハガキにご記入いただき、ご投函頂きますようお願いいたします。  
 今後とも、ご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。